

科目名		企業演習				
担当教員		齋藤 真一		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	通期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	96
授業概要、目的、 授業の進め方		総合資格学院との企業連携による演習となる。 社会人向けの講座を社会人とともに受けることで資格取得への緊張感を味わうことは学校での勉強とは違うものとする。又、社会人としての心得と資格の重要性を学ぶことで卒業後の修業に対するイメージができることを目的とする。				
学習目標 (到達目標)		一級建築士学科試験において、１００点（１２５点中）以上の点数を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		総合資格学院オリジナルテキスト				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	建築計画			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	環境設備			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	建築法規			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	建築構造			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	建築施工			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	※毎回授業開始前			授業の開始前に達成度テスト、定着度テストを実施		
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
模擬テスト 80 %	取組姿勢 20 %			社会人とともに学ぶ機会は少ない。 是非、お互いにコミュニケーションをとり教えあうことでレベルアップすることを期待したい。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		一級設計製図課題演習				
担当教員		平山 貴士		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2年	開講時期	通期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数	240
授業概要、目的、授業の進め方		一級建築士設計製図試験に合格するためにはどのような知識が必要か、何を学習して、何が出来れば合格する事ができるのか理解する。学科の学習と並行に、設計製図試験に合格するための知識をインプットし、一部アウトプットできるようになるよう学習を進める。				
学習目標 (到達目標)		前期の授業により既受験生に劣らない設計製図の知識レベルを目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		令和4年度 一級建築士設計製図講座テキスト（総合資格学院） その他配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	課題文を読む			課題文を正確に読み取り、課題文の意図を読み解き、要点の記述に対するキーワード抽出が視野に入っている課題文の読み取りが行えるよう学習を行う。		
2	エスキースを作成する			エスキースの流れの理解、エスキースの手順の理解、空間構成の理解、エスキースをまとめきる力を養いつつ、ミスのない中間チェックができるように学習を行う。		
3	要点の記述を書く			要点の記述の文章構成の理解、エスキースに合わせた要点の記述の理解、要点の記述の自己添削を行い適切な文章が書けるようになる。		
4	作図を行う			作図手順の理解、作図表現の理解、作図のトレース、時間内に作図できるスピード、エスキースから作図に起こす練習を行う。		
5						
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点 60 %	課題 40 %			授業100％出席が基本です。内容を理解するための授業に出席し、理解できない部分を独学でやらないように質問等しながら一級建築士製図試験突破を目指しましょう。まずは授業に出る事が試験への理解を深める最短ルートです。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		一級建築法規				
担当教員		石井 孝典		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方		建築基準法及び都市計画法等によって建築物を計画・設計するうえでの様々な法規制がなされ、また、時代の変化に対応して改正がなされている。最新の建築関連法規を座学と演習を通して学ぶ。①建築関連法規に準拠した建築構造・機能などの重要性を学ぶ。②建築計画の最低基準を定めた重要な分野であるとの認識で、法規の制度・規制内容を理解する。③図説講義➡課題➡振り返り➡確認➡習得を繰り返すことで、質の高い建築技術を習得する。④また、一級建築士試験合格を目指し、模擬テスト等で実力を養う。				
学習目標 (到達目標)		最新の建築基準関連法規の制度やその規制内容等についての知識を修得し、建築物の設計・工事監理に関する法令・技術基準を修得することで、一級建築士合格、実務技術の修得を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①1級建築士講座テキスト（総合資格学院） ②1級建築士問題集（総合資格学院）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	都市計画法			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	消防法			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	高齢者、障害者等の円滑化の促進に関する法律 建築物の耐震改修の促進に関する法律			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	住宅の品質確保の促進等に関する法律 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	建設業法			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 その他の関係法令			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
7	全範囲問題集			方法：過去問題を中心とした復習テスト 準備学習：教科書の復習		
8	最終確認			方法：模擬試験 準備学習：過去問の復習		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期考査 80 %	取組姿勢 20 %			卒業後、実務において建築物の設計及び工事監理等ができるよう建築基準法・関連法規を十分理解してもらうため、重要項目は繰り返し解説をする。そして一級建築士の合格を目指す。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		一級建築施工				
担当教員		木原 隆明		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方		建築の施工は、建築の技術者としての基本的な理論を理解する必要があることと、1級建築士の学科試験に合格する為の知識として、規定値を暗記する必要があるので、この2点に重点を置き講義をします。特に施工は経験工学と言われる程、実際の現場や作業の流れを視覚から理解をしないと難しい面があるので、施工写真や、図を見せながら、講義をします。また数値の暗記は語呂などを声に出させ、また、ノートに書くことで聴覚と手を動かすことで脳を刺激して記憶の定着を図ります。				
学習目標 (到達目標)		一級建築士学科試験「建築施工」において、20点（25点中）以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		1級建築士講座テキスト（総合資格学院） 1級建築士問題集（総合資格学院）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	押出成形セメント板工事 張り石工事			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	タイル工事 木工事			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	左官工事 屋根及び金属工事			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	カーテンウォール・ガラス工事 内装工事			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	塗装工事 改修工事			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	設備工事 施工機械			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
7	請負契約			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
8	全範囲問題集			方法：過去問題を中心とした復習テスト 準備学習：教科書の復習		
9	最終確認			方法：模擬試験 準備学習：過去問の復習		
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点 20 %	課題 %	模擬試験 60 %	小テスト 20 %	施工の試験は比較的、過去問の出題割合が多いので、過去問での何でそうなるのかの理論、理屈を理解してから、その規定値を暗記すれば、必ず高得点源になります。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		一級建築構造				
担当教員		木原 隆明		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方		建築士試験は耐震偽装問題を境に益々難易度が高くなり、非常に取得しにくい資格となっている。中でも建築構造は、構造力学という数学を使用する分野も含んでおり、苦手意識を持つ生徒も少なくない。過去問題を中心に授業を進め、かつ、補講を活用することで構造に対する苦手意識を取り除きたい。				
学習目標 (到達目標)		一級建築士学科試験「建築構造」において、２５点（３０点中）以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		1級建築士講座テキスト（総合資格学院） 1級建築士問題集（総合資格学院）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	鉄骨鉄筋コンクリート構造			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	木質構造			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	基礎構造			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	その他の構造等			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	木材			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	コンクリート			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
7	金属			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
8	全範囲問題集			方法：過去問題を中心とした復習テスト 準備学習：教科書の復習		
9	最終確認			方法：模擬試験 準備学習：過去問の復習		
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点 20 %	課題 %	模擬試験 60 %	小テスト 20 %	構造は力学、各種構造、材料学に分離されるが各種構造で点数がどれだけとれるかがポイントとなる。内容的に施工と重複する部分が多いため施工と合わせた勉強法を習得してほしい。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		一級建築計画				
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画は、一般的に「計画各論」。 計画各論は、人間工学的観点からの建築物各部の計画上の留意点及びそれぞれの目的別に計画される建築物についての計画上の諸要素とその具体的検討事項について学ぶ。				
学習目標 (到達目標)		一級建築士学科試験「建築計画」において、16点（20点中）以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		1級建築士講座テキスト（総合資格学院） 1級建築士問題集（総合資格学院）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	細部計画			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	建築積算			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	都市計画			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	建築生産			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	建築設計・監理業務委託契約約款			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	全範囲問題集			方法：過去問題を中心とした復習テスト 準備学習：教科書の復習		
7	最終確認			方法：模擬試験 準備学習：過去問の復習		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期考査	取組姿勢			一級建築士はあらゆる用途に関する知識が求められる。 住宅以外に公共施設における設計能力を身に付けていくうえでとても重要な科目となる。		
80 %	20 %	%	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		一級環境設備				
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	有	
対象学科		一級建築士専攻・大学併修科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	72
授業概要、目的、授業の進め方		環境設備は、一般的に「計画原論（環境工学）」・「建築設備」に大別される。計画原論は、建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理におかかわる室内環境について学ぶ。				
学習目標 （到達目標）		一級建築士学科試験「環境設備」において、１６点（２０点中）以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		1級建築士講座テキスト（総合資格学院） 1級建築士問題集（総合資格学院）				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	省エネルギー・保全・管理			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
2	給排水・衛生設備			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
3	電気設備			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
4	昇降機設備			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
5	防火・防災設備			方法：講義形式としその内容を解説する。 準備学習：教科書の予習と復習		
6	全範囲問題集			方法：過去問題を中心とした復習テスト 準備学習：教科書の復習		
7	最終確認			方法：模擬試験 準備学習：過去問の復習		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期考査	取組姿勢			環境設備において給排水衛生設備、空調設備、電気設備、防火・防災設備などは学生にとって比較的苦手な分野となっている。苦手意識を拭い去ることを望む。		
80 %	20 %	%	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						